

## 第2回車座会議 議事概要

- 1 日時：令和6年7月4日（木）14：15～15：15
- 2 会場：イノベーション・ハブ・ひろしまCamps
- 3 登壇者：湯崎広島県知事、白川 俊之准教授（広島大学総合科学部）、栢田 絵理奈さん、濱岡 千咲さん（叡啓大学3年）、森 佑太さん（叡啓大学1年）、園部 花奈さん（広島工業大学4年）、旦 千之進さん（広島工業大学3年）、唐澤 恋花さん（RCCアナウンサー）、田口 麻衣さん（司会・RCCアナウンサー）

### 4 概要

#### 【オープニング】

田口 私自身息子が3人いる。若い世代の皆様の意見を聴けるのを楽しみにしている。

（田口さんからの出演者の皆様の紹介）

（広島県の少子化の現状と課題等について、広島県担当者から説明）

#### 【論点1：子供を持つ・持たないという判断のきっかけについて】

田口 若い皆様は将来子供を持ちたいか持ちたくないか、まだわからないかどれに当てはまるか。

⇒ 将来子供を持ちたい（全員が挙手）

田口 持ちたいのはなぜか？

濱岡 両親と仲が良い。家族の中で、自分が成長できるため。

田口 他に違う意見はあるか。

森 逆に子供を持っていない人と触れ合う機会がない。頭の中で自然にできるものだと思う。1人暮らしをされていて寂しいから。

田口 不安に思うことは何かあるか？

園部 金銭面での不安がある。

田口 それを踏まえたうえで、何人くらいほしいか？

園部 2人ほしい。お金はかかるけど1人っ子だと寂しい、老後のことを考えると支えあえる存在がいたらいいと思う。

湯崎 あなた自身は何人兄弟？

園部 3人兄弟。

田口 なぜ希望は2人なの？

園部 経済的に難しいから。

田口 旦さんは何人ほしいか？

旦 自身が3人兄弟なので3人ほしい、金銭的問題もあるが3人が良い。

田口 唐澤さんは何人ほしいか？

唐澤 何もなければ3人。お金のことを考えると2人。子供を育てるのにかかる費用を大学で学んだ。私が3人兄弟だったため、男女両方ほしいので、2人産んで同じ性別だったら3人目となるかもしれない。

田口 濱岡さんは何人ほしい？

濱岡 私が3人姉妹だったので、3人がいい。金銭的不安もあるがそれを考えなければ3人。

田口 学校など周りに子供はいらないって方はいるか？

濱岡 自分の生活を優先したいという人もいる。金銭面、時間を考えると難しい。

田口 森さんはどうか？

森 年齢的な問題もあるかもしれないが、恋愛は楽しみたいけど結婚したくないという人はいる。お金がかかるし、まだずっと一緒に生活することが想像つかない。

田口 柘田さんは3人の子供がいるが元々1人だと寂しいのか考えていたか？

柘田 私は夫も1人っ子。子供にとってはいとこやおじさんおばさんが1人もいないので、そういうことを考えると3人くらいはと思っていた。実際に3人子供がいるが、予想以上にお金がかかる。遊びに行くにも、習い事などもみんな入れてあげたいなって考えると、何をやるにも3人分のお金がかかる。どうにかたくさんさんの経験はさせてあげたいけど、財布と相談している。しかし、子供を生んだ瞬間に180度世界が変わって見えた。子供を育てていると成長させてもらっているし、自分自身がどのくらい愛情をもって育てられたかなどいろんなことに気づくことができた。大変なこともたくさんあるが凄く幸せ。

田口 白川先生どのように感じたか？

白川 皆さん若いのに将来のことについてよく考えていてすごいという印象。自分が学生の頃はこんなに考えていなかった。

田口 白川先生自身もパパだが、子供が生まれる前と後で描いていたものはどうか。

白川 客観的にみると生活は変わる。まだ赤ちゃんなので子供ベースの生活になってくる、柘田さんもおっしゃっていたが、やはり大変ではあるが、これまでの生活が変わるのは悪いわけではない。新鮮なこともたくさんある。子供を通して私自身も経験させてもらっている。

田口 参加者の意見を聞いて湯崎知事はどうか？

湯崎 皆さん白川先生が言ったようにすごく考えている。子供を持つことは大変なことではあるが、実際はかなり何とかなる部分もある。

柘田 私も実際何とかなっている、数字のデータ上だとすごく不安なこともあるかもしれないが、地域の方だったり施設だったり、意外と周りにあるため助けてもらえている。

## 【論点2：結婚・子供を持つことに希望を持てる社会にするためには、どんな施策が必要か？】

田口 学生の皆さんは結婚・子育てについて希望を持てる社会とはどのようなものだと思いますか？

園部 若年層に対する出産等の施策が何かあってほしい。先ほどのデータにもあったが、若年層の方が結婚に対する不安を持っている。早期の結婚にメリットがあるような施策があったらいいのではないかな。

田口 例えばどのようなメリットか？

園部 決められた年齢までに結婚出来れば何かがあるような施策。

田口 旦那さんはどうか？

旦那 育休がとりやすい環境になれば、夫婦で協力して育児生活できるのではないかな。

田口 私の息子が通う学校の男性教員が1年育休を取得したということがあったが、育休は進んできているか？

湯崎 育休についてはかなり意識は変わってきているが、まだ取得しづらいということもあると思う。女性だと育休率が100%近い値までいっているのに対し、男性の育休率は20~30%で女性に比べては低いが、上がってはきている。

柘田 現状だと育休を取得する際に誰かに迷惑をおかけするのではないかと考えてしまう。「ありがとうございます」よりも、「すみませんが」先に言葉に出てしまう。だから精神面の申し訳なさがなくなっていくと、より子育てしやすい環境になっていくのではないかと感じる。

田口 濱岡さんはここまで聞いてどうか？

濱岡 1人暮らしをしているが、自分の出身地以外で結婚・子育てをすることになった際に、一番頼りやすい両親が遠く、誰に頼ればいいのか分からないなどあるが、地域の方や職場の方に助けてもらえるということが子育てに希望が持てるのではないかと感じた。

田口 森さんは？

森 制度や数字が先行してなんとなく不安がある。子育てをしている20代後半30代前半の方と話す機会があれば、また違ってくるのではないかと。自分の親世代は、教授やバイト先などで触れ合う機会はあるが、親と自分たちの世代の間の子育て現役世代と触れ合う機会がない。

柘田 子育て世代同士の接点はあるが、若い世代と子育て世代がナチュラルに触れ合うことのできるイベントなどがあたらいいと思う。

湯崎 アメリカだと高校生がベビーシッターなどをすることもあるが、そういった触れ合う機会があるのがいいのかもしれない。

田口 唐澤さんは働いている世代だがどうか？

唐澤 私も大学生くらいの時には何となく26歳くらいには子供がいるのかなと考えていたが、実際に働いてみると今は無理だと感じることもあり、実際に平均出産年齢と変わらなくなる気がする。育休の際に申し訳なさを感じる。そして復帰後に現在のパフォーマンスを出すのは難しいのではないかとと思う。

田口 周りの同世代男性の意見を聞いたりするか？

唐澤 まだ想像できないという人や、35歳くらいからなら子供を持ってもいいかという人がいる。

田口 それは男性視点的になんでだと思います？

唐澤 自身のキャリアアップのことを考えているからではないか。私は群馬県出身だが、そこだと同年代でも結婚している方もいる。広島に実家がない方は少し違う考えになってくるのかもしれない。男性の育休って見せかけの1週間とか、パフォーマンスのように感じる部分もあるので、現実的には厳しいのかなとも思う。

田口 専門家の立場からして白川先生はどうか。

白川 男性も育休を取得しなければいけない。子供が体調を崩した際に、対応するために時短出勤などで女性に対応することが多い。男性が参画して、助け合いながらしていかなければいけない。ただ、男性も育休を取得している方は知事がおっしゃったように増えている。

田口 家事代行サービスなど、夫婦以外の力を借りるとよいということもあるか？

白川 経済的な余裕があれば利用できたらいい。日本社会の特徴かもしれないが、チームで仕事をすることが多いように感じる。そのため、育休などをする際に申し訳なさというものをを感じる男性も女性も、仕事と家庭の両立をしやすい環境になれば変わってくるのではないかな。

田口 湯崎知事はいかがか？

湯崎 申し訳なさはやはり（当事者）本人としてはそうかもしれない。ただ、職場としてウェルカムな会社になっていけばうれしい。SNS等で「子持ち様」と批判するような論調もあるが、それぞれがそれぞれの希望を叶えることができそれがいいじゃない、誰も非難しないような関係になればいい。

### 【論点3：希望の数の子供を持てるよう行政が後押しすることは妥当か？】

田口 児童手当や授業料無償など行政のサポートがあれば皆さん助かるか？

⇒ 助かる（全員が挙手）

田口 では、そのサポートはみなさんの税金からということになる、税金からということになっててもということでみなさんの意見をうかがいたい。

且 サポートがあった方が食費などにお金を回すことができるので、サポートがあった方が生活にゆとりができる。

濱岡 私もあった方がいい。自分が独身でも子供がいる状態でもいない状態でもみんなのためにサービスを続けた方がよいので、少子高齢化社会の波を考えるとよい施策なのでは。

森 子供の有無によって不公平だという考えもあると思うが、子供がいる大人と子供がいない大人が対立する視点ではなく、社会全体が子供のためという視点で考えることが重要だと思う。子供が生まれた後も子供にとって何か後押しになるような施策があるとよい。

唐澤 子供にお金をかけると子供の将来が変わるというデータがある。教育にお金をかけることで、多くのことを学ばせられる。どのようなサービスがあるのか勉強をする機会があるとういことが大事。

柘田 不公平感というのはあると思うが、子育てをしている親に行政の支援があるということではなく、子供に対しての支援であり、それで育った子供たちが豊かなアイデアで私たちを支えてくれる。長男が幼稚園の在園中に幼児教育の無償化が始まり、途中から月謝が無料になった。そこで当時の園長から「このお金はお父様お母様にあるものではありません。必ず子供のために使ってあげてください。」という話があり、なるほどと思った。

田口 白川先生はいかがか？

白川 私も皆さんと同じ。人口ピラミッドからもわかるが、かつてない多くの高齢者を将来少ない若年層が支えていかないといけないということになる。社会全体で長期的にみると少子化対策は必要だと感じる。実際にそういった社会で育てられた子供たちが、大人になった際に自分達が支えられてきた子育て支援を受け継いでいこうと感じてくれるのではないかな。

田口 行政の面から湯崎知事どうですか？

湯崎 最近、国の子育て支援金がすごく議論になっている。反対意見には2つの面があり、負担額をなんとなくごまかしているのではないかなという面と、負担が増えるのはちょっと厳しいという面。現実問題として、支援を考えていくとそれなりに切り詰めて考えていかな

ければということもある。ここで皆さんに質問だが、仮に子育て支援のために消費税が上がるとなるとどう思うか？

旦 明確に何に使うのかわかっていれば賛成。

森 明確に何に使うのかわかっていたらいい。けど大学生として税金が上がるのはつらい。

濱岡 自分事を感じると苦しいが、将来の自分の子供もその税金に支えられるのであれば払う価値のある税金だと感じる。

濱岡 使いどころが明確に記載されていればよい。

園部 子育て支援に使うということで明確なら上がってもいいかなと思う。自分以外のことも考えると上がってもよいのではないか。

旦 明確に表記されていれば賛成。

田口 結構我慢しないといけなくなるけど大丈夫？

旦 将来の自分以外の子供たちのことも考えると、税金が上がっても施策が充実する方がよいと感じる。

田口 知事どうか？

湯崎 皆さんそろって具体的に何に使っているかわかれば税が上がってもよいとの意見だったが、行政としてはすごく心強い意見だと感じた。これからの車座会議を通して様々な意見をもらいながら考えていきたい。

(以 上)